

2019年度

事業活動報告書

社会福祉法人 グラン・ヘリオス会

# 2019年度事業報告

## 2019年度施設目標

### 「地域福祉の拠点となり思いやりの心で笑顔の暮らしに繋がります」

職員一人ひとりが、入居者・利用者様の気持ちを考えた思いやりの心でケアをさせていただくことで、笑顔の多い暮らしに繋げることが出来た。また、地域福祉に貢献する意識を持つことにより施設部門と在宅部門の連携を強化することが出来た。

#### 【日中オムツ排泄ゼロ】

- ・本人の気持ちを大切に継続していく
- ・オムツの削減

#### 【口腔機能を維持し美味しく食べる】

- ・全フロアーで食事前に嚥下体操の実施
- ・歯科往診での定期的な指導・アドバイスを周知
- ・意識・知識が向上し、衛生管理や食事を美味しく食べる

#### 【身体拘束ゼロの実践】

- ・身体拘束ゼロの施設方針を掲示
- ・委員会の定期的な開催・検討
- ・拘束に対する意識が向上

#### 特養稼働率・タイムラグ

- ・従来型 95.4% 49.6名 ユニット型 94.4% 45.3名
- ・タイムラグ 本館 24日 新館 18日
- ・退所者数 本館 19名 新館 20名 合計 39名
- ・退所者のうち 17名がターミナルケア、21名は急変等により医療機関へ、1名他施設へ

#### 在宅部門

- ・地域包括・居宅・デイサービス・ショートステイとの月1回定例の在宅部門会議の実施
- ・デイの利用が1日平均 26.8名
- ・ショート利用が1日平均 7.9名、稼働率 98.4%

#### 委員会活動

- ・分野別専門的に議論し各部署会議にて検討
- ・各部署より検討意見を持ちより具体的な検討・実施

## 施設のイベント

- ・ イベント委員会を中心に計画的に実施、新しい企画への取組
  - ・ 9/7 納涼祭 実行委員会を中心となり実施
  - ・ 12/27 もちつき大会 インフルエンザにて中止 機械でついた餅を振舞う
  - ・ 5/6 むさしの村、7/5 古代蓮見学、9/13 敬老会、11/10 川里フェスティバル
- ※台風・インフルエンザ・新型コロナウイルスの影響により中止イベントあり

## 苑内設備更新

- ・ デイサービステーブル・椅子の入替
- ・ 本館浴室脱衣室床改修
- ・ 厨房温冷配膳車入替

## 実習生の受け入れ

- ・ 関東福祉専門学校から第1段階～4段階実習で8名の実習生（8名中6名海外学生）

## 教育研修

- ・ 苑内での伝達研修会を21回行い、平均15名が受講
- ・ 外部講師を招いて認知症研修を実施し16名が参加
- ・ 次世代の人材育成研修を実施（30代職員11名参加）
- ・ 第12回事例報告会では、9部署が発表し27名参加

## 社会福祉法人として

- ・ 10月より特定処遇改善加算を取得し職員の処遇改善につなげる
  - ・ 就業規則・給与規程等の改定
  - ・ 法人間連携事業に参加し、就職相談会実施、防災協定等近隣の法人との連携
  - ・ 彩の国あんしんセーフティネット事業での生活困窮者への対応
  - ・ 地域に向けて施設見学会を年3回予定（2回実施）
- |     |                              |              |             |
|-----|------------------------------|--------------|-------------|
| 第1回 | 7/20                         | 川里苑での活動紹介・足湯 | 27名参加       |
| 第2回 | 12/7                         | 介護保険・認知症セミナー | 37名参加（職員含む） |
| 第3回 | 3月に予定しておりましたが新型コロナウイルスの影響で中止 |              |             |
- ・ 川里フェスティバルに参加 介護・健康相談 高齢者被害等のチラシ配布
  - ・ 障害者雇用の継続

## 2019年度 委員会・会議評価

委員会	委員長	評価	開催日		
広報委員会	荒井	パンフレット作成など、新しいものが出来、施設をアピールするツールとして活用していくことが必要である。目標として、ホームページなどの活用により情報発信を挙げているが、業者との関わりの中で思うように進まず今年度中に完成することが出来なかった。完成後は活用しアピールをしていきたい。次年度は広報誌作成に携わる方を増やし、さまざまな視点を取り入れられるように努めていく。	第1	月	16:00～
イベント委員会	進藤	例年とは違ったイベントを行おうと計画、実行することができた。職員も計画をしっかりと立て、入居者の為に下見に行ったりしていた。自然災害等色々あり、中止となってしまった行事もあるが、来年度はコロナウイルスから始まっているので外出できるのはいつになるか不安が残る。		木	16:00～
給食委員会	中村唯	喜ばれる食事提供として、新たに各地のご当地メニューを毎月実施。楽しみと好評をいただいたケーキbuffetの実施、手作りおやつ、ユニット調理も計画通り実施。委員会での意見に対し、統一を図り改善に努めることが出来た。			16:00～
衛生委員会	岡村直	①定期健康診断は年2回、インフルエンザ予防接種は11月に2日間実施→必要に応じて後日再検査や定期的に受診するよう呼びかけ行った②福祉用具在庫管理表を各フロアに依頼し、集計した資料に基づき、必要な物・台数等検診を行った③ウイルスステア、マスクの使用徹底や面会の制限等により感染防止に努めた→職員、入居者併せて20名ほどインフルエンザに感染し、保健所への報告も行った④臨時衛生委員会を実施した(4回)⑤マッスルスーツは、新館1階入居者1名に用途を限定し、日常的に使用できたが、2機双方の使用には至らず次年度の検討材料となった。	16:00～		
排泄・褥瘡予防ケア対策委員会	中田	(褥瘡)酷い褥瘡発生なくエアマット、ジェルマットの利用、高田医師のソララだんご効果あり、ひどい褥瘡なし(胃瘻)医療的ケア養成資格者育成(吸引)ケアワーカーの吸引よってのトラブルなし	第2	月	16:00～
接遇委員会	野本和	毎年の反省となってしまっているが、目標を周知させていかなければいけないと思う。モデル行動についてもその時だけでなく、普段より心掛けてもらえるようにしていきたいと思う。		16:00～	
防災委員会	藤田	今年度は消防署から査察があり、指摘事項を提出。その中で消防訓練は年2回、いずれも消火訓練と避難訓練をセットで実施する義務があるため実施する。今年度起きた台風被害に伴い防災の意識を高め、川里苑独自の防災マニュアルを確立し被害が出て慌てず対応していきたい。		16:00～	
リーダー会	古市	働き方改革として業務改善、効率化を進めるにあたり、特養職員の各フロアの勤務体制を理解(見える化)し、各リーダー間で支援を組み、休暇取得の平等を図ることができた。さらに情報をリーダーからフロアへ共有し、問題点の改善と方向性の統一に前進できたことで次年度に繋げていきたい。	第3	水	13:30～
入所判定委員会	島田	本年度から第三者委員の関沼様から渡辺様に交代し新たな体制で入所判定会議を行った。前年度と比べても本館、新館共に入退所が多く入れ替わる状態であった。次の入所判定までに1か月空いてしまう状況から審議が充分に行えない事もあった。特例での入所は本館1名、新館2名あり特例入所の要件に該当するかの判定については透明性・公平性を確保した審議ができた		11:00～	
苦情処理委員会	川島	ショートステイの苦情については、相談員やショート担当から他の職員に情報や申し送りが行き届いていない部分から生じたと考えられる。居室の調整は本人に確認しながら代替策を講じている。その他、苦情としてまで取り上げる内容ではないものが2件あったが、対応によっては誤解が生じ問題が大きくなってしまふ可能性がある。記録をしながら対応は継続する案件もあるので注視していく。		16:00～	
身体拘束廃止委員会	島田	拘束着の着用が必要なケースが1件あったが、解決に向け良い話し合いができた。それぞれのフロアでも工夫があり対応して頂いており、拘束することなく入居者様が過ごすことが出来ている。今後においても拘束0を基本に危険性がある場合、拘束の必要性や理解は深めていく必要がある。	第4	金	9:20～
虐待防止委員会	古市	委員会メンバーが自分のフロアで話し合いスピーチロックや虐待に繋がる事例を報告することで職員の防止意識を高められたと評価する。また、逆に利用者、入居者から職員が暴言、暴力、精神的な嫌がらせを受けストレスを受けていることが改めて分かった。職員のストレスや感情コントロールについてこれからは委員会を通して継続的に共有し合い、虐待が発生することを防止していく。		16:00～	
教育委員会	小野関	苑内勉強会(外部講師含)23項目延べ320名参加、平均14名参加。各部署への伝達、苑内事例報告会は9部署の発表で12年継続ができています。外部研修71名参加することが出来た。多くの学びから施設のケアの向上に繋げていきたい。		5月・7月・9月・11月	
事故防止対策委員会	牧	①事故報告書から不十分な点について委員会で話し合い、協議することができたと思うが、細かい部分で考えなければならない点が多々あると思う。②ヒヤリハットにおいても事故に発展しないよう協議分析できたが、ハード面の見直しとして骨折や誤薬においては0件にできていない状況にあり、常に投げかけていこうと思う。又今年度は物損に係る事故も出ており注意、周知する必要がある	5月・7月・9月・11月		
経営会議	河野	毎月実績分析をして経営状況の把握と分析することができた。この一年間、各部署ごとの情報発信と共有がなかなかうまくできず、連携不足な面があった。特養のタイムラグ、デイの売り上げも下がっているため、売り上げも意識しつつ、やはり介護の質を上げ、地域に川里苑をPRすることも意識して次年度を盛り上げていくようにする。	5月・7月・9月・11月		
臨地委員会	河野	・第三段階実習では夜勤が行えなかったため時間を調整し、数時間でも体験出来ればよかった ・バス、電車の時間で実習時間の変更があった。あらかじめ通勤手段を確認しておいた方がよかった	5月・7月・9月・11月		

## 2019年度 各部署の評価

部署名	評価
本館2階	目標とする「一人ひとりに寄り添い思いを聴くこと」は日々の挨拶の充実から始め、トイレ排泄の要望や思いを職員から提案し、実現することが継続できている。一人ひとりの思いを汲み取り、尊厳を大切に看取ることもできた。生活に潤いと楽しさを毎月の行事計画に取り入れ、入居者・職員共に楽しみを作ることもできている。
本館3階	リーダーとして異動して1年、フロアの職員・入居者様とのコミュニケーションを深め、理解出来るようにとやってきたが、忙しいこともあり出来ていないことが多くなってしまったと思う。フロア職員の介護の統一ができるよう、報・連・相がしかりできるよう来年度に繋げていきたい。
新館1階	毎月のフロア行事を通して目標の「季節に応じた行事」が行え、喜ばれることで職員も一緒に楽しむことが出来た。下半期より入居者様の入れ替わりや入退院、緊急ショートが増え、入居者様のケアに慣れるまで時間がかかってしまった。次年度では今以上に職員間で情報共有していきたい。入れ替わりが多かったが入浴についての情報は率先して行動計画できていた。
新館2階	入居者の入れ替わりが多く、コミュニケーションの弱さを感じた。徘徊者への対応で業務に問題を感じたが、皆の協力での対応を考えることができた。家族との接点は少なく思えたが、カンファレンス参加を呼びかけ信頼関係に繋げることができた。
新館3階	入居者との関わりを多く持つよう、各職声掛けをしっかりと行っていた。外出や散歩をする機会をあまり設けることが出来なかった。次年度は計画を立て、外出をする機会や天気の良い日に散歩へ行けるよう時間を作りたいと考えている。
新館4階	24Hシート参照しながらの話し合いには至らなかったが「施設サービス計画書」を基本としてより良い支援へのつながりは出来てきた。又、全てのご家族様ではないが、何人かのご家族様にもサービス担当者会議に参加してもらうことが出来、信頼関係を築ける一つになったと思う。「その人らしさ」を大切に温かい気持ちで支援に繋げていくためにはスタッフ一人一人が人間力向上に向けた学びが必要だと感じた。次年度の目標では、もう少し具体的に立案していきたい。
デイサービス	クラブ活動を充実させたが行事等は計画的な予定実行ならず来年度に向けては事前に計画を立て実行できるようにする。見学から新規に繋がるケースもあり、上半期は12名で下半期は11名の新規利用、追加利用や曜日変更は迅速かつ柔軟な対応をした。利用者数は頻度の多い利用者の入院や入所に伴い終了となるなど上半期は28名前後で下半期は26名前後と目標を大幅に下回る結果となった。随時、空き情報等を他事業所に伝え連携強化を図り改善に努めたい。
事務	今年度は、9月障害者トライアル雇用助成金(1名)、10月特定処遇加算の取り組みを行い算定をスタートすることができた。育児休暇中の職員が2名という職員不足の状況の1年であったが、現場介護職員の支援もあり1年を終えることができた。現場の職員が事務業務に携わることで互いに見えていない部分に気づくことができた。疑問に感じたことや改善できる部分はよりよい方向へと取り組んでいきたい。各自の知識の向上も現状の様子の中で皆前向きに行うことができた。今期の課題を来期の課題とし、風通しの良い環境づくりをしていきたい。
看護	特に大きな事故等もなく、また入院もさほど多くなく穏やかだったが、新しく入所する利用者が早くに看取りになるケースが多く、高齢で入所してくるので仕方ないかと思うが、残念である。年度末になってコロナウイルスの流行が起き、施設内で感染がおこると大変なことになるので予防に努めたい。
栄養	喜ばれる食事提供として、新たに各地のご当地メニューを毎月実施。楽しみと好評をいただいた。ケーキビュッフエの実施、手作りおやつ、ユニツ調理も計画通り実施。委員会での意見に対し、統一を図り改善に努めることが出来た。
生活相談員	平均稼働率 本館95.3%、新館94.3%、ショートステイ97.4%であった。入所申込者は現状、本館29名、新館13名となっている。今年度は特養入退所の入替りが激しく本館19名、新館20名と前年度を大きく上回っている。タイムラグを埋めるために医療依存度が高い方の受入れをしていかなければならない状況になりつつもあった年度であった。施設側からニーズを探しに積極的に施設外での活動を行っていききたい。ショートステイの稼働率としては目標の95%はクリアできている。しかし、入院等の理由により利用中止となったり、他施設や川里苑入所により契約終了となり空床が埋められない事がある。普段から居宅のケアマネジャーとの情報交換や利用者、ご家族のニーズを把握し利用増に結びつけられるようにしていきたい。
居宅	9/18実地指導が行われ、問題点は無かった。12月末にて1名、1月末にて1名が退職となった。心配なケースは管理者が引き継ぐことにして他は各居宅介護支援事業所へ依頼した。要介護35件・予防事業対象者7件を支援していく。来年度は6月と10月に自立支援地域ケア会議に事例の提出が早くも決定している。気を引き締めて取り組んでいきたい。
介護支援専門員	入所に至る以前の生活歴やサービスの利用状況(居宅計画書・前施設計画書・主治医の意見書・診療情報等)から、在宅・居住系施設からの連続性を意識した暫定計画書の作成に努めた。入所説明の際には、ご家族と面談し、本人・家族のニーズを聞き取り、入所当日には暫定計画書を準備し、ケアの指針として交付することができた。カンファレンス後の会議録・モニタリング・評価表・計画書の作成・回覧も速やかに行うことができていた。又、関係部署からの書類提出も迅速になり、速やかな計画書の送付・同意書の受領が行えている。限られた利用者様の同意書回収に滞りがあるが、引き続きご家族の状況に合わせた方法で協力を仰いでいきたい。利用者様の医療的ニーズも増え、滞在期間も短く、毎月のように看取り介護計画書の作成・介護にあたり、ご家族より感謝の言葉をいただくことができたが、より良い看取り介護が行えるよう、さらに関係部署との連携に努めたい。
地域包括	新型コロナウイルスの影響で、3月の地域ケア会議、ネットワーク会議が中止になり、笠原公民館祭りの参加依頼があったが中止となった。総合相談件数、介護予防給付件数の増加見られ、人員的不足となり、独居要援護高齢者訪問の回数確保が難しかった。